

エターナル・サンシャイン

2005(平成17)年3月26日鑑賞(梅田ピカデリー)

★★★★



監督＝ミシェル・ゴンドリー／脚本＝チャーリー・カウフマン／出演＝ジム・キャリー／ケイト・ウィンスレット／キルスティン・ダンスト／イライジャ・ウッド／マーク・ラファロ／トム・ウィルキンソン（ギャガ・ヒューマックス共同配給／2004年アメリカ映画／107分）

……つらい失恋の記憶だけを消すことができたなら……。そう思った経験は誰にでもあるはず。そんなテーマを何とも巧妙に脚本化し、アカデミー賞最優秀脚本賞を受賞したのがこの映画。そして同主演女優賞にノミネートされたケイト・ウィンスレットの演技も『タイタニック』（97年）以上にすばらしいもの。しかし、この映画はやっぱり難しい。頭の中がゴチャゴチャになって疲れること請け合い（？）だから、その覚悟で……。そんな中、もう1本の失恋（不倫）のストーリーはわかりやすく、少しホッとするかも……？



もしも、失恋の記憶だけを消すことができたなら……？

誰にでも大なり小なり失恋の経験があるもの。私などはもともと立ち直りが早い方だったし、今やいくら失恋してもすぐに立ち直れるパワーと狡さを身につけた（？）が、多くの純真な若者たちはそうはいかないもの……。もっとも、そうだからこそハッピーな恋愛映画とともに涙を誘う失恋映画は常に映画の重要な一翼を担うジャンルになるもの。

そしてこの映画は、「もしも失恋の記憶だけを消すことができたなら」という発想にヒントを得て、企画・脚本・製作された映画。パンフレットにあるミシェル・ゴンドリー監督のインタビューによれば、友人と食事をしている時、その友人から「もし彼女の記憶を消せたらなあ」と言われたことが、この映画誕生のきっかけになったとのことだ。

記憶喪失をネタにした映画あれこれ……

このように、『エターナル・サンシャイン』は、「もしも失恋の記憶だけを消すことができたなら」というテーマから生まれた映画だが、最近私は、同時期に記憶喪失をテーマにした映画を観ている。その第1は『ロング・エンゲージメント』(04年)。これは第1次世界大戦中のドイツ VS フランスの塹壕戦で死んだはずの恋人を捜し求める感動ドラマだが、その兵士が完全に記憶を失っていることがストーリー構成の大前提。第2に『50回目のファースト・キス』(04年)は、短期記憶喪失障害で「前日のことをすべて忘れてしまう」若い女の子にホレたプレイボーイの涙ぐましい恋の奮闘記。そして第3は『きみに読む物語』(04年)で、これはアルツハイマー病(認知症)になってしまった愛する妻に対して昔の恋愛物語を語って聞かせる感動作。その他、日本映画の『いま、会いにゆきます』(04年)も記憶喪失がテーマ。このように記憶喪失をネタにした映画は多いが、その中でもこの映画は、失恋の記憶だけを消すというところがミソ……。

最優秀オリジナル脚本賞を受賞

この映画の脚本を手がけたチャーリー・カウフマンは、第77回アカデミー賞で最優秀オリジナル脚本賞を受賞した。「もしも失恋の記憶だけを消すことができたなら」をテーマにしたとしても、いざそれをいかに面白い物語にするかは、脚本家の腕前次第。パンフレットによると、チャーリー・カウフマンは過去にも『マルコヴィッチの穴』(99年)、『アダプテーション』(02年)でアカデミー賞最優秀脚本賞にノミネートされており、この映画の「独創性」を考えれば今回の最優秀オリジナル脚本賞の受賞は当然かも。

この映画は難しい！

もっとも、この映画のストーリーを理解するのはとても大変。まず、ニューヨークに住み、思いつきで髪の毛の色を染めわけるというちょっとエキセントリックな女性クレメンタイン(ケイト・ウィンスレット)は、いつも特に話すネタがないという退屈な男ジョエル(ジム・キャリー)との失恋の記憶を既に消し去っ

ていた。ラクーナ社からの知らせでこれを知ったジョエルはそれにショックを受け、ジョエルもクレメンタインの記憶を消し去ろうとした。そしてその記憶消去手術の過程の中で、同時平行的に新しいクレメンタインとジョエルとの恋愛ストーリーが展開していくというのがチャーリー・カウフマンが書いた脚本。このように2人の(旧)失恋物語と(新)恋愛物語が入り混じって展開していくから、一生懸命に観ていても、途中で頭の中が混乱し、何が何だかわからなくなってしまうはず……。したがってこの映画に限っては、事前にパンフレットを読んである程度の予備知識をもって観た方がいいかもしれない。観終わった後、多くのアベックたちの声も「こりゃ難しかった！」というものがほとんどだった……。



もう1つの失恋(不倫)ストーリーは……？

この映画のメインは、クレメンタインとジョエルとの失恋の記憶消去と新しい恋のスタートという物語だが、この記憶消去の手術をするラクーナ社の医師ハワード・ミュージワック博士(トム・ウィルキンソン)とラクーナ社の受付嬢であるメアリー(キルスティン・ダンスト)との間の失恋(不倫)のストーリーがメインの物語に絡まって展開される。これは単純でわかりやすいもの……。そして何よりも、このメアリーを演じるキルスティン・ダンストがかわいい。さらにこのメアリーと絡むのが、ラクーナ社のハワード博士の助手のスタン(マーク・ラファロ)とラクーナ社の技師のパトリック(イライジャ・ウッド)。このパトリックはクレメンタインがジョエルと別れた後の次の恋人になっている男だから、話はややこしい……？



意外に簡単な(?)記憶消去手術

この映画ではじめに独創的に登場する、脳から失恋の記憶だけを消去するという手術は意外に簡単……。一晩でできるらしい。しかしそのためには患者(?)からその恋に関する思い出の品をすべて提出させ、患者がその品を見ながら脳の中でその記憶を回想していく必要がある。そしてその脳の状態をパソコンの画面上で見ながらハワード博士の助手であるスタンがこれを1個ずつ消去していくというわけだ。この映画でハワード博士は、「二日酔い」と同じようなレベ

ルでのちょっとした「脳障害」を発生させるようなものと気楽に説明していたが……？ ホンマに危険はないのかいな……？

途中大きなトラブルが……？

前記の担当者による作業が一段落すると、自動消去モードに入るらしい。患者は既に睡眠薬を飲んで眠っているだけだから、その間助手のスタンや技師のパトリックは好きなことを……。しかしいくら何でも、パトリックのように途中で仕事を放り出して彼女のもとへ行ってしまったたり、自動消去モードに入ったからといって、スタンのように受付嬢のメアリーとマリファナを吸って大はしゃぎされたのでは眠っている患者はたまったもんじゃない……。現にジョエルの記憶消去手術中、大きなトラブルが発生した。

それは自動消去モードに入っているにもかかわらず、ジョエルが途中でクレメンタインとの失恋の記憶を消去するのを中止したいと望みはじめたことが原因。もちろんこれは、睡眠薬で眠っているジョエルの深層心理の中での出来事だが、そのためにパソコンが途中で異常を警告し、スタンの技術ではどうしようもなくなったから大変。やむなくスタンとメアリーはマリファナパーティーを中止して、真夜中にもかかわらずハワード博士を呼ぶことに。そして、急遽駆けつけてきたハワード博士は、何とかこの事態をおさめたものの、その後を追ってきたハワード博士の妻は博士とメアリーとの姿を目撃……。さあ次のトラブル発生だ……。

アカデミー賞最優秀主演女優賞争いは？

ケイト・ウィンスレットは『タイタニック』(97年)、『アイリス』(01年)に続いて、この『エターナル・サンシャイン』によって第77回アカデミー賞主演女優賞にノミネートされたが、残念ながら『ミリオンダラー・ベイビー』(04年)のヒラリー・スワングが最優秀主演女優賞を獲得することに……。演技派女優としてその役割を次々と広げているケイト・ウィンスレットにすればさぞ残念だろうが、3度も主演女優賞にノミネートされただけでもその実力は立派なもの。もっとも『タイタニック』のレオナルド・ディカプリオのように「落ちグセ」がつくのは困りものだが……。

2005(平成17)年3月28日記